

豊橋市

山車まつり情報

豊橋市内では、湊町神明社、前芝神明社、忠興八幡社、二川八幡社等で山車を曳く祭りが行われています。二川八幡社は江戸時代の末期から続いている神輿渡御があり、3台の山車が町内に繰り出します。山車は四つの車輪で、赤い幕が四方を囲み、その上に前山と上山の二段構えの作りのもので、慶応元年（1865年）に名古屋で新規作成されたものです。からくり山車は、中町（和藤内とぼたん）、新橋町（小野道風と蛙）、東町（うさぎの餅つき）の3台があり、昼12時から夜22時頃まで町内を曳き廻されます。平成26年からは新たに南町も山車を出すようになりました。

二川 二川八幡社祭礼

二川八幡社
豊橋市二川町東町85-1

御車（中町）

おくるま

建造時期：慶応元年8月（大工 東四郎）。からくり人形は、上山に「和藤内」、前山に「采振り人形（唐子人形）」を搭載。「和藤内」は「国性爺合戦」第三段の「紅流し」を再現。「采振り人形（唐子人形）」は他町と異なり中国色の強いものとされている。



二川 二川八幡社祭礼

二川八幡社
豊橋市二川町東町85-1

御車（東町）

おくるま

建造時期：慶応元年8月（大工 東四郎）。上山にからくり人形「満月と兎の餅つきとススキとモミジ」を搭載。町の象徴として載せたという説もあるが、江戸時代末期に人気のあった歌舞伎舞踊「玉兔」の場面を再現したという説もある。



湊町 湊町神明社例祭

湊町神明社
豊橋市湊町1

山車

だし

建造時期：昭和32年10月。当初、山車は湊町神明社区域の6ヶ町のうち、3町にあったが、2台が解体されて1台のみとなった。現在は1台を6ヶ町で巡幸している。

No Photo

地区名

まつり名称

祭礼場所

祭礼場所の住所

山車名称（組名等）

よみがな

山車等の特徴

情報の見方

二川 二川八幡社祭礼

二川八幡社
豊橋市二川町東町85-1

御車（新橋町）

おくるま

建造時期：慶応元年9月（大工 東四郎）。上山に傘を持ったからくり人形「小野道風、柳、蛙、あやめ」があり、「努力」の教訓話の意味を持つとされている。前山には「神主の幣振り人形」が乗っている。



忠興町 忠興八幡社例祭

忠興八幡社
豊橋市牛川町乗小路30

山車

だし

建造時期：昭和57年10月3日。昭和57年5月に神社境内地から用材を伐り出して地元で製作。山車の建造により、出発時の神事、祭り囃子が創作され、山車の巡幸が新たに行われるようになった。

No Photo

前芝町 前芝神明社例大祭

前芝神明社
豊橋市前芝町西94

山車

だし

建造時期：昭和36年9月。当時の日本電装社長林虎男が寄贈したもの。

No Photo

豊川市

山車まつり情報

豊川市内の山車まつりでは、山車とその周りで様々な芸能が行われます。豊川進雄神社例大祭や牛久保の若葉祭、免足神社の風祭りの山車上で奉納される隠れ太鼓は、演者が欄干から見え隠れし、独特な動きをして観衆を沸かせます。大社神社臨時大祭と宮道天神社例大祭ではお囃子を奏す山車に絢爛豪華な歌舞伎行列が伴います。御油神社例大祭の山車は、曳航途中の橋上で全6台が一堂に会し圧巻です。このほかにも、手筒煙火や笛踊り、獅子舞など様々な芸能が各所で奉納され、とても賑やかで見ごたえがあります。

国府町

大社神社臨時大祭

大社神社
豊川市国府町流霞5

山車（上町）

だし

建造時期：不明。国府町上町地区の山車で太鼓や三味線などが奏される。真夏の炎天下の旧東海道を歌舞伎行列とともに練り行く。





国府町
大社神社臨時大祭
大社神社
豊川市国府町流霞5

山車(中町)

だし

建造時期：不明。国府町中町地区の山車で太鼓や三味線などが奏される。真夏の炎天下の旧東海道を歌舞伎行列とともに練り行く。



国府町
大社神社臨時大祭
大社神社
豊川市国府町流霞5

山車(下町)

だし

建造時期：不明。国府町下町地区の山車で太鼓や三味線などが奏される。真夏の炎天下の旧東海道を歌舞伎行列とともに練り行く。



国府町
大社神社臨時大祭
大社神社
豊川市国府町流霞5

山車(南田)

だし

建造時期：不明。国府町南田地区の山車で太鼓や三味線などが奏される。真夏の炎天下の旧東海道を歌舞伎行列とともに練り行く。



国府町流霞地内
八百富神社式年総参り
大社神社及び蒲郡市竹島
豊川市国府町流霞5

花車(上町)

はなぐるま

建造時期：不明。車は大量の花を挿して装飾され、餅の入った俵や神酒を積んでいる。神事後、伊勢音頭を囃し踊り、俵の餅をまきながら竹島を目指す。



国府町流霞地内
八百富神社式年総参り
大社神社及び蒲郡市竹島
豊川市国府町流霞5

花車(中町)

はなぐるま

建造時期：不明。車は大量の花を挿して装飾され、餅の入った俵や神酒を積んでいる。神事後、伊勢音頭を囃し踊り、俵の餅をまきながら竹島を目指す。



国府町流霞地内
八百富神社式年総参り
大社神社及び蒲郡市竹島
豊川市国府町流霞5

花車(下町)

はなぐるま

建造時期：不明。車は大量の花を挿して装飾され、餅の入った俵や神酒を積んでいる。神事後、伊勢音頭を囃し踊り、俵の餅をまきながら竹島を目指す。



国府町流霞地内
八百富神社式年総参り
大社神社及び蒲郡市竹島
豊川市国府町流霞5

花車(南田)

はなぐるま

建造時期：不明。車は大量の花を挿して装飾され、餅の入った俵や神酒を積んでいる。神事後、伊勢音頭を囃し踊り、俵の餅をまきながら竹島を目指す。



豊川進雄神社氏子区域26町
豊川進雄神社例大祭
豊川進雄神社
豊川市豊川西町134

東の大山(豊川連区内の東14町)

ひがしのおおやま

建造時期：寛文元年以前。人形「楠正成」を塔載し、斉藤金物店前に西の大山と向かい合わせに設置される。東西の大山上では同時に「隠れ太鼓」が行われ、還御の行列が東西の大山の間で停止する際には、大山上で5・6人の稚児が東西交互に稚児舞を舞う。



豊川進雄神社氏子区域26町
豊川進雄神社例大祭
豊川進雄神社
豊川市豊川西町134

西の大山(豊川連区内の西12町)

にしのおおやま

建造時期：不明。人形「赤鬼」を塔載し、宮岡屋酒店前に東の大山と向かい合わせに設置される。東西の大山上では同時に「隠れ太鼓」が行われ、還御の行列が東西の大山の間で停止する際には、大山上で5・6人の稚児が東西交互に稚児舞を舞う。



豊川進雄神社氏子区域26町
豊川進雄神社例大祭
豊川進雄神社
豊川市豊川西町134

東の囃子車(豊川連区内の東14町)

ひがしのはやしぐるま

建造時期：不明。上段は出演する子どもたちが待機し、下段にはお囃子を受け持つ着物姿の女性が座る。囃子車が止まると車の前に演台が引き出され、その上でお囃子や子どもたちの踊りが披露される。



豊川進雄神社氏子区域 26 町
豊川進雄神社例大祭
豊川進雄神社
豊川市豊川西町 134

西の囃子車 (豊川連区内の西 12 町)

にしのはやしぐるま

建造時期：不明。上段は出演する子どもたちが待機し、下段にはお囃子を受け持つ着物姿の女性が座る。囃子車が止まると車の前に演台が引き出され、その上でお囃子や子どもたちの踊りが披露される。



豊川進雄神社氏子区域 26 町
豊川進雄神社例大祭
豊川進雄神社
豊川市豊川西町 134

瑠璃の壺 (西豊町)

るりのつぼ

建造時期：不明。リヤカーに搭載されており、神輿渡御の神幸行列で 16 番目に列する。



豊川進雄神社氏子区域 26 町
豊川進雄神社例大祭
豊川進雄神社
豊川市豊川西町 134

伊勢参り (東豊町)

いせまいり

建造時期：不明。リヤカーに搭載され、人形「伊勢参り姿の女」が乗っている。神輿渡御の神幸行列で 17 番目に列する。



牛久保町
若葉祭
牛久保八幡社
豊川市牛久保町常盤 164

大山車 (上若組)

おおやま

建造時期：天保7年4月。牡丹、白鳩、金箔の鳳凰の彫刻がみられ、唐破風の屋根下の虹梁には雲の文様が彫られている。屋根の上に恵比寿人形を飾り、欄干に飾り布団を掛け、稚児がお囃子にあわせてからくり人形のように舞う「隠れ太鼓」が行われる。



牛久保町
若葉祭
牛久保八幡社
豊川市牛久保町常盤 164

大山車 (西若組)

おおやま

建造時期：不明。やや小ぶりな唐破風の屋根で、二層目に大黒人形を飾る。欄干に飾り布団を掛け、稚児がお囃子に合わせてからくり人形のように舞う「隠れ太鼓」が行われる。棟木に「于時文政十三年寅年四月八日下町中町 氏子中」と書かれた墨書がある。



牛久保町
若葉祭
牛久保八幡社
豊川市牛久保町常盤 164

囃子車 (上若組)

はやしぐるま

建造時期：不明。唐破風の屋根で五七の桐紋を中心に唐草文様と思われる立派な飾り金具が取り付けられている。顔を白く塗った男子が大太鼓や笛に併せて締め太鼓を叩き、お囃子が奏される。



牛久保町
若葉祭
牛久保八幡社
豊川市牛久保町常盤 164

囃子車 (西若組)

はやしぐるま

建造時期：不明。切妻屋根で、四方に欄干がある。顔を白く塗った男子が大太鼓や笛に合わせて締め太鼓を叩き、お囃子が奏される。



牛久保町
若葉祭
牛久保八幡社
豊川市牛久保町常盤 164

神児車 (神児組)

みこぐるま

建造時期：天保12年(推定)。唐破風の屋根で、四方に欄干がある。お囃子が奏される中、男子による「神児舞」が行われる。



御油町
御油神社例大祭
御油神社
豊川市御油町膳之棚 31

山車 (新丁)

だし

建造時期：不明。神幸行列の先触れとして、巫女車とともに巡行する。お囃子の曲名は、上りは「桜ばやし」で下りは「御油音頭」



御油町
御油神社例大祭
御油神社
豊川市御油町膳之棚 31

山車 (西町)

だし

建造時期：不明。神幸行列の先触れとして、巫女車とともに巡行する。お囃子の曲名は、上りは名称不詳で、下りは「薬名の神様」。



御油町
御油神社例大祭
御油神社
豊川市御油町膳之棚 31

山車 (相生)

だし

建造時期：不明。神幸行列の先触れとして、巫女車とともに巡行。お囃子の曲名は、上りは名称不詳で、下りは「月の巻」。



御油町
御油神社例大祭
御油神社
豊川市御油町膳之棚 31

山車 (追分)

だし

建造時期：不明。神幸行列の先触れとして、巫女車とともに巡行する。お囃子の曲名は、上りは「桜ばやし」で下りは「御油音頭」。



御油町
御油神社例大祭
御油神社
豊川市御油町膳之棚 31

山車 (本町)

だし

建造時期：不明。神幸行列の先触れとして、巫女車とともに巡行する。お囃子の曲名は、上りは「梅ヶ枝」で下りは「下り六法」。



御油町
御油神社例大祭
御油神社
豊川市御油町膳之棚 31

巫女車 (音羽)

みこぐるま

建造時期：不明。笛・鉦・太鼓などがお囃子を奏で、小学校低学年の男児が巫女に扮して舞を披露する。神幸行列の先触れとして囃子車とともに巡行する。



赤坂町
宮道天神社例大祭
宮道天神社
豊川市赤坂町宮路 1120

囃子車 (関川一区又は紅葉舎)

はやしぐるま

建造時期：天保6年。唐破風屋根で豪華な装飾が施されており、神社などで御子おどりが披露される。神輿渡御の先触れとして、青年による「歌舞伎行列」が先導し練り行く。



赤坂町
宮道天神社例大祭
宮道天神社
豊川市赤坂町宮路 1120

囃子車 (下町又は紅葉舎)

はやしぐるま

建造時期：不明。唐破風屋根で豪華な装飾が施されている。神輿渡御の先触れとして、青年による「歌舞伎行列」が先導し練り行く。



赤坂町
宮道天神社例大祭
宮道天神社
豊川市赤坂町宮路 1120

囃子車 (中町又は紅葉舎)

はやしぐるま

建造時期：嘉永7年1月。唐破風屋根で豪華な装飾が施されている。神輿渡御の先触れとして、青年による「歌舞伎行列」が先導し練り行く。



小坂井町、平井町、宿町
風祭り
菟足神社
豊川市小坂井町宮脇 2

御車 (小坂井)

おくるま

建造時期：寛政3年4月。JR飯田線高圧線下を通るため、屋根を下げるができるようになっている。山車上ではお囃子に合わせて稚児舞・獅子舞・太太鼓（隠れ太鼓）が行われる。



小坂井町、平井町、宿町
風祭り
菟足神社
豊川市小坂井町宮脇 2

御車 (宿)

おくるま

建造時期：不明。JR飯田線高圧線下を通るため、屋根を下げるができるようになっている。山車上ではお囃子に合わせて稚児舞・獅子舞・太太鼓（隠れ太鼓）が行われる。

蒲郡市

山車まつり情報

蒲郡市は、各地に山車まつりがあり、それぞれ祖先崇拜と郷土愛をもって地元に密着して執り行われています。その代表が三谷祭であり、最大の見どころは全国でも珍しい祭事「海中渡御」で、4台の山車を海中に曳き込む「海中渡御」こそ、三谷祭にかけの地元の意気と団結を示すもので、ここに「天下の奇祭」と称される所以があります。蒲郡は、「東海道にですぐれたる海のながめは蒲郡」と鉄道唱歌に歌われ、三河湾国定公園に指定された海辺の観光地です。三谷温泉・蒲郡温泉・形原温泉・西浦温泉の4つの温泉郷がある癒しの観光スポットへ皆様ぜひお越しください。



形原6区
素盞鳴神社秋祭
素盞鳴神社
蒲郡市形原町羽栗2

山車(形原6区)

だし

建造時期：不明。伊勢の木曳き神事に由来するといわれる。明治初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上安全を祈願して始まったとされる。青葉で葺き上げた屋根を設ける。そこに大漁旗や造花等を飾り立てる。



形原3区 御嶽神社例祭

御嶽神社
蒲郡市形原町御嶽44

三区あおい丸(形原3区)

さんくあおいまる

建造時期：不明。伊勢の木曳き神事に由来。明治初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上安全を祈願して始まったとされる。青葉で葺き上げた屋根を設ける。そこに大漁旗や造花等を飾り立てる。曳き回しは4年に1回が原則。



形原3区 御嶽神社例祭

御嶽神社
蒲郡市形原町御嶽44

山車(形原3区)

だし

建造時期：不明。伊勢の木曳き神事に由来。明治初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上安全を祈願して始まったとされる。子供用の小型船。



形原3区 御嶽神社例祭

御嶽神社
蒲郡市形原町御嶽44

山車(形原3区)

だし

建造時期：不明。伊勢の木曳き神事に由来。明治初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上安全を祈願して始まったとされる。青葉で葺き上げた屋根を設け、そこに大漁旗や造花等を飾り立てる。厄年会山車は実際に使用されていた船を利用。



三谷
三谷祭
八劔神社等
蒲郡市三谷町七舗139等

剣の山車(上区)

つるぎのやま

建造時期：昭和10年。柱先に剣と交差する御幣2本。彫刻「神武天皇の御東征」(欄間正面)、「八岐大蛇」(欄間右面)、「天の岩戸」(欄間左面)、「日本武尊草薙の剣」(欄間後面)、「昇り龍・降り龍」(高欄)等の飾り。



三谷
三谷祭
八劔神社等
蒲郡市三谷町七舗139等

恵比寿の山車(西区)

えびすのやま

建造時期：不明。棟の真中に松木と岩に腰掛けた恵比寿像(からくり、明治4年・5代目玉屋庄兵衛作)。彫刻「神功皇后縁起」(欄間)、「蓮と鳩」(高欄)の他に大幕や水引に様々な刺繍等様々な飾り。



三谷
三谷祭
八劔神社等
蒲郡市三谷町七舗139等

三蓋傘の山車(北区)

さんがいかさのやま

建造時期：大正10年。柱先に上より黄、青、赤の垂れを付けた3個の傘。欄間彫刻は「大楠公、小楠公」にまつわるもので、「建武の中興」(正面)、「桜井の別れ」(後面)、「湊川の合戦」(右面)、「四条縁の合戦」(左面)等の飾り。



三谷
三谷祭
八劔神社等
蒲郡市三谷町七舗139等

花の山車(中区)

はなのやま

建造時期：明治26年。柱先に48本の割竹に赤縁取りの造花と、赤、青、黄の短冊を付け、根元を束ねる。彫刻「源頼朝富士の巻狩り」(四面)、「松に鶴」(高欄)等の様々な飾り。



三谷
三谷祭
八劔神社等
蒲郡市三谷町七舗139等

神船若宮丸(東区)

しんせんわかみやまる

建造時期：寛政2年。和船を真中に載せ四輪付櫓に取付けている。通称「お船さん」。船首に幣束等、船尾に船名旗等を飾る。欄間は龍宮城の乙姫と浦島を四面に彫っている。その他屋形の4本の柱に龍の彫り物等。



蒲郡
大宮神社例大祭
大宮神社
蒲郡市宮成町6-4

大成組山車(大成組)

たいせいぐみだし

建造時期：不明。ちゃらぼこ太鼓（打ちはやし）が見どころ。



蒲郡
大宮神社例大祭
大宮神社
蒲郡市宮成町6-4

大組山車(大組)

おおぐみだし

建造時期：不明。船形山車。別称は大宮丸（おおみやまる）。ちゃらぼこ太鼓（打ちはやし）がまつりの見どころ。



蒲郡
大宮神社例大祭
大宮神社
蒲郡市宮成町6-4

川西組山車(川西組)

かわにしぐみだし

建造時期：不明。ちゃらぼこ太鼓（打ちはやし）がまつりの見どころ。



蒲郡
大宮神社例大祭
大宮神社
蒲郡市宮成町6-4

ろ組山車(ろ組)

ろぐみだし

建造時期：不明。船形山車。別称は吉光丸（よしみつまる）。ちゃらぼこ太鼓（打ちはやし）がまつりの見どころ。



蒲郡
大宮神社例大祭
大宮神社
蒲郡市宮成町6-4

栄組山車(栄組)

さかえぐみだし

建造時期：不明。ちゃらぼこ太鼓（打ちはやし）がまつりの見どころ。



蒲郡
大宮神社例大祭
大宮神社
蒲郡市宮成町6-4

に組山車(に組)

にくみだし

建造時期：不明。ちゃらぼこ太鼓（打ちはやし）がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(東府相)

だし

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(赤羽根)

だし

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

竹島丸(浜家)

たけしまる

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(長薙)

だし

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(東松原)

だし

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(西松原)

だし

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

小組丸(小組)

こくみまる

建造時期：不明。船形山車。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(海岸)

だし

建造時期：不明。祭車。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(西組)

だし

建造時期：不明。祭車。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(大和)

だし

建造時期：不明。祭車。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(天王)

だし

建造時期：不明。祭車。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(四ツ輪)

だし

建造時期：不明。祭車。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(あらい)

だし

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(新井形)

だし

建造時期：不明。祭車。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(東郭)

だし

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(東町)

だし

建造時期：不明。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



竹島町
八百富神社例大祭
八百富神社 本殿・遙拝所
蒲郡市竹島町3-15

山車(東町)

だし

建造時期：不明。船形山車。七福神踊、ちゃらぼこ太鼓がまつりの見どころ。



西浦町
龍田天神社例祭
龍田天神社
蒲郡市西浦町上堂前14

天神丸(龍田)

てんじんまる

建造時期：不明。伊勢の木曳き神事に由来するといわれる。明治の初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上安全を祈願して始まったとされる。中央部に四本柱を取付け青葉で葺き上げた屋根を設け、その屋根に大漁旗や造花等を飾り立てる。



西浦町
龍田天神社例祭
龍田天神社
蒲郡市西浦町上堂前14

おやりん丸(龍田)

おやりんまる

建造時期：不明。伊勢の木曳き神事に由来するといわれる。明治の初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上安全を祈願して始まったとされる。天神丸に比較して小型の船。

新城市

山車まつり情報

富永神社例大祭は毎年10月の第2金曜日から日曜日まで3日間で行われます。祭礼は、能楽・山車・笹踊り・手筒花火等が行われ、初日は能楽殿での能狂言の奉納、中日はお神輿の渡御、最終日には手筒花火や大筒の奉納があります。ここの山車は人形屋台と太鼓屋台が分かれ、先頭の人形屋台に長さ3mほどの縄で太鼓屋台を連結していることに特徴があります。



下町、西新町、入船他3つ
富永神社例大祭
富永神社
新城市字宮ノ後78

山車(下町)

だし

建造時期：大正4年(水野鍵太郎)。人形(高科正芳)は、仁徳天皇が臣民たちの電から炊煙のあがるのを小手をかざして御覧になり、下に皇后が控えている場面。



下町、西新町、入船他3つ
富永神社例大祭
富永神社
新城市字宮ノ後78

山車(本町)

だし

建造時期：安政元年。新城で最初に山車を作ったと言われる。3輪に長柄がつき、飾りのついた枠をのせその上に人形を置き、格子状屋根を設える。人形「神功皇后」。新羅を征し、凱旋して九州で皇子を出産したという神話に基づく。



下町、西新町、入船他3つ
富永神社例大祭
富永神社
新城市字宮ノ後78

山車(橋向)

だし

建造時期：大正5年(水野鍵太郎)。人形(高科正芳)は「楠正成、正行親子」。西国へ落ちたが、盛り返して再び京へ征め上がる足利尊氏を迎撃しようと湊川へ向かうとする正成が正行に形見の品を渡す楠公桜井の分かれの場面。



下町、西新町、入船他3つ
富永神社例大祭
富永神社
新城市字宮ノ後78

山車(酌場)

だし

建造時期：大正14年(水野健太郎)人形(高
科正芳)は和気清麻呂が宇佐八幡宮の神勅
を天皇に奏上している場面。山車がでる
前は町内の巧者な人が車の上に作り物を設
けて、これを子どもたちに曳かしていた。



下町、西新町、入船他3つ
富永神社例大祭
富永神社
新城市字宮ノ後78

山車(西新町)

だし

建造時期：大正14年。人形は明治天皇と
時の侍従長、公爵徳大寺実則(西国寺公望
の兄)の二人で憲法発布の日の有様を表し
たもの。



下町、西新町、入船他3つ
富永神社例大祭
富永神社
新城市字宮ノ後78

山車(入船)

だし

建造時期：昭和26年。入船は永い間、山
車がなかったが、氏子の熱意により建造。
人形を飾らず、子どもが上って踊りをす
るため、幅広に作られている。市中の処々
で止まって踊りを披露するので神輿渡御の
時には行列の最後尾。

No Photo

大宮
石座神社例祭
石座神社
新城市大宮字狐塚14

山車(牛倉)

だし

建造時期：不明。笹踊りがまつりの見ど
ころ。

No Photo

大宮
石座神社例祭
石座神社
新城市大宮字狐塚14

山車(富沢)

だし

建造時期：不明。笹踊りがまつりの見ど
ころ。

No Photo

平井
八幡神社秋季例大祭
八幡社
新城市平井字地官内

山車(平井)

だし

建造時期：不明。煙火がまつりの見ど
ころ。江戸時代の中期、新城藩士が参勤交代
で江戸に出席した折に、両国の川開きの花
火を見て持ち帰ったという。

No Photo

長篠
富永神社祭礼
富永神社
新城市長篠字竹田内

山車(長篠)

だし

建造時期：不明。旧国道約1.5kmを車両
通交止めにし、歩行者天国として稚児行
列、山車行列のお練りが繰り広げられる。

No Photo

大野
大野神社祭礼
大野神社
新城市大野字奥林内

山車(大野)

だし

建造時期：不明。町内を山車行列として練
り歩く。

田原市

山車まつり情報

田原祭りは、江戸時代に熊野神社の祭礼として始まりました。田原
城下町の文化を伝える明治時代以降、名古屋型の屋山車が取り入れ
られ、本町・萱町・新町の3台のからくり人形を乗せた山車が街中
を練り歩きます。最終日の夕方からは手筒・大筒花火、打ち上げ花
火が上げられます。田原に秋の訪れを告げる祭礼として、氏子のみ
ならず市民にも親しまれ多くの観光客が訪れます。この3町の山車
からくり人形は市の指定の文化財となっており、本町、萱町のもの
は田原まつり会館でご覧になれます。



萱町、本町、新町他2つ
田原祭り
神明社等
田原市田原町北番場1等

総代車(萱町)

そうだいしゃ

建造時期：明治13年。明治以前は人形2
体を担ぎ物に乗せ、町内で踊らせ、見せて
いた。からくり人形「日本武尊人形」、「惣
代人形(おべろべい人形)」、文楽人形「女
人形」を搭載。



萱町、本町、新町他2つ

田原祭り

神明社等

田原市田原町北番場1等

神功皇后車(本町)

じんぐうこうごうしゃ

建造時期：明治29年9月（森棟九郎）。幕等飾り物は京都本町大丸で作製。からくり人形「神宮皇后人形」、「武内宿祢人形」、「踊り子人形」（六代目玉屋庄兵衛）を搭載。



萱町、本町、新町他2つ

田原祭り

八幡社等

田原市田原町南番場58等

應神天皇車(新町)

おうじんてんのうしや

建造時期：昭和3年。名古屋の業者から購入。明治33年以前には八幡太郎義家座像人形を立てた山車があった。人形「応神天皇人形」、「官女人形」、「唐子の舞人形」を搭載。



福江

秋葉神社・畠神社大祭

畠神社等

田原市福江町宮ノ脇等

下地組山車(下地)

しもじぐみだし

建造時期：昭和15年。紀元2600年を記念して建造。旅館井筒萬に泊まる季節労働者の中にいた半田大工に宿泊・食事を無料とする代わりに依頼。彫刻「虎」、「獅子」。「下地の坂」と呼ばれている、急な坂道を一気に引き上げる。

No Photo

福江

秋葉神社・畠神社大祭

畠神社等

田原市福江町宮ノ脇等

紺屋組山車(紺屋)

こんやぐみだし

建造時期：昭和55年9月。その年に流行しているアニメ等のキャラクター人形を飾る（手作り 針金・紙等で作る）。小中学生がお囃子を演奏したり、山車を曳きながら踊る。「下地の坂」と呼ばれている、急な坂道を一気に引き上げる。



福江

秋葉神社・畠神社大祭

畠神社等

田原市福江町宮ノ脇等

原組山車(原ノ島)

はらぐみだし

建造時期：昭和20年頃。その年に流行しているアニメ等のキャラクター人形を飾る。山車を曳きながら手踊りを踊る。「下地の坂」と呼ばれている、急な坂道を一気に引き上げる。

No Photo

福江

秋葉神社・畠神社大祭

畠神社等

田原市福江町宮ノ脇等

新宅組山車(新宅)

しんたくぐみだし

建造時期：不明。その年に流行しているアニメ等のキャラクター人形を飾る。山車を曳きながら手踊りを踊る。「下地の坂」と呼ばれている、急な坂道を一気に引き上げる。



福江

秋葉神社・畠神社大祭

畠神社等

田原市福江町宮ノ脇等

澤組山車(沢)

さわぐみだし

建造時期：昭和57年新調。その年に流行しているアニメ等のキャラクター人形を飾る。小中学生がお囃子を演奏したり、山車を曳きながら踊る。「下地の坂」と呼ばれている、急な坂道を一気に引き上げる。

設楽町

山車まつり情報

津島市の津島本社の祭りを模したもので、牛頭天王に関係する祇園祭です。この祭りは奥三河でごく一般的に行われていましたが、清水津島神社のように盛大かつ伝統そのままに継承されているのは珍しいことです。昔、悪疫が流行した時に、「村が三軒になってもチョウチン祭りは続ける」と津島様に祈願してあるからだと言います。祭りの見どころは、夕刻の田園風景の中で行われる沢山のチョウチンを灯した山車曳と、お囃子奉納後のチョウチン取りです。持ち帰れば夏病みしないと言われます。



清水

チョウチン祭り

清水津島神社

設楽町西納庫字松下29

チョウチン祭用山車(清水)

不明

建造時期：不明。山車は二階建になっているが、竹を四方に立て、チョウチンを付けるため、屋根部分はない。津島神社の石段下でチョウチンを取り合いまつりが終了。

東栄町

山車まつり情報

東栄町は、昭和51年（1976年）に国の重要無形民俗文化財に指定され、毎年11月上旬から3月上旬にかけて町内11ヶ所で夜を徹して盛大に行う「花祭」が有名ですが、山車も存在しています。春にはJR飯田線東栄町付近で須佐之男神社祭礼が行われて山車が曳かれるほか、「秋の大祭宵祭り（諏訪南宮神社）」では、山車1台が曳き廻されるだけでなく、打ち上げ花火や手筒花火が行われ、祭りを盛り上げます。



本郷

秋の大祭宵祭り

諏訪南宮神社

北設楽郡東栄町大字本郷字大森1

諏訪南宮神社山車^(本郷)

すわなんぐうじんじゃだし

建造時期：不明。まつりの中で、打ち上げ花火や手筒花火が行われる。



畑組

須佐之男神社祭礼

須佐之男神社

北設楽郡東栄町大字三輪字沢上

山車

だし

建造時期：不明。宵祭りでは、山車をはじめ、打ち上げ花火などが行われる。